

薬剤師教育プログラム

済生会小樽病院 薬剤室
2026 年度

目的

済生会小樽病院薬剤室に入職したのち、スペシャリストを見据え、5年間でジェネラリストを目指す教育プログラム。

【1年目】

病院薬剤師の基本業務（内服・注射調剤、TPN 無菌調整など）を中心に学ぶ。6カ月後を目安に病棟業務を開始。

病棟業務は調剤室配置時からカルテの見方に慣れ、10月から病棟業務を開始。1週間ごと各病棟を回り、各病棟の特色を知るとともに、各専門認定薬剤師による病棟前研修を行う（感染制御、腎臓病、NST、緩和ケア、糖尿病、老年、がん化学療法、高血圧・循環器、認知症、FLS）。11月以降は病棟チームに配属し、病棟業務ローテーションの一角を担う。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調剤室業務	内服・注射調剤											
	処方・調剤監査											
	薬品請求	TPN調製										
	DI											
病棟業務				残り番						待機業務		
							実務研修	病棟チーム配属				

① 調剤室業務

錠剤、散剤（分包品）、外用剤の取り揃え、電子カルテでの処方監査、処方データの送信方法について学ぶ。水剤・散剤・軟膏剤など混合を伴う調剤は適宜行う。概ね調剤ができると判断されれば5月から処方箋に処方監査印を押すこととする。なお、最終監査は処方監査を開始した日から2ヶ月以降から行う。

② 注射業務

3週目から注射の払い出しを行う。処方監査方法を理解し、調剤システムを用いて注射箋を発行、注射薬を取り揃え、注射カートへのセットを行う。臨時・緊急注射薬の払い出しや返品処理も経験しておく。概ね調剤ができると判断されれば5月から処方箋に処方監査印を押すこととする。なお、最終監査は処方監査を開始した日から2ヶ月以降から行う。

③ 院内製剤

TPNの調製は入職後3週間～4週間の間に実地に教育を行う。

その他院内製剤についてはその都度学ぶこととする。

④ 薬品管理業務

請求伝票での払出方法を学ぶ。院内在庫の確認、卸業者を確認し、発注について待機開始までの期間に習得する。

⑤ DI

医薬品情報の閲覧、収集方法、薬品マスタの概要を理解する。

記録：新人教育の実施内容は別紙の新人教育実施状況確認書に記録する。

【2年目】

1年目と同様にセントラル業務+病棟業務の組み合わせになるが、病棟は病棟を半年毎に変更する。

1年目の薬剤師がいる場合プリセプターとなり自分の担当する新人の面倒をみるとともに、日々の教育スケジュールを計画する。

各種研修会への参加や学会での発表を積極的に推奨し、自己研鑽に励む。

【後志病院薬剤師会会員研究発表会等での発表】

【3～5年目】

3～5年目は病院薬剤師の様々な業務を経験し学ぶ。DI、感染、糖尿病、NST、緩和ケアをローテーションで必ず一回ずつ経験し、それぞれ専任の薬剤師の下で分担された業務を行いながら学ぶとともに、将来、専門性をもって関わっていきたい領域について考える期間とする。

臨床研究やグループ内での研究会・勉強会の担当となり、発表を通して知識やスキルを磨いていきます。

【QC大会、済生会学会、北海道薬学大会等での発表】

【5年目】

5年目以降になると、病棟業務を専任で行う。さらに6年目以降では、2～5年目の間に経験した様々な業務の中から興味のある領域を選択し、認定取得を視野に入れながら、より専門性の高い専任担当として業務に従事する事を目標とする。

将来いずれかの領域のスペシャリストになることを見据えながら、その基礎となる病院薬剤師の一般知識と経験を積み重ねることで、5年間でジェネラリストになれるよう構成。